

令和3年度第1回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和3年7月8日(木) 午後2時00分～午後3時20分
- 場 所 伊勢市役所本庁舎本館3階 委員会室
- 出席委員 中條、花田、松村、岩崎、濱口(恵)、森、竹中、下野、谷崎、北川、森田、中川、近、江原
- 事務局 健康福祉部
- ・次長 大井戸、参事 岩佐
 - ・子育て応援課 副参事 谷、子育て応援係長 西川、こども育成係長 福田、福井
 - ・保育課 課長 堀川、保育係長 濱地、保育施設管理係長 須川
 - ・健康課 課長 浦田、母子保健係長 北口
 - ・生活支援課 課長 濱口
 - ・こども発達支援室 室長 樋口
- 教育委員会事務局
- ・教育総務課 課長 前村、中井
 - ・学校教育課 指導主事 浅井
 - ・社会教育課 課長補佐 阿部

議 題

- (1) 会長・副会長選任
- (2) 第2期伊勢市子ども・子育て支援事業計画の進捗について
- (3) 休園中の公立幼稚園の廃園について

- ・事務局より開会挨拶、委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（１）について協議

→会長・副会長選任、会長・副会長挨拶

【事務局より】

議題（２）について説明（資料１、資料１別紙）

（「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す）

- 病児保育は足りているか。また、足りていない話も聞くので、か所数を増やすことは考えていないか。

→1日の定員4名であるが、同一の感染症であれば定員を超えて受け入れしている。また、現状は市設置の病児保育エンゼルの他に、民間事業者で1つ病児保育が立ち上がっており、受入枠は足りているという認識であり、現行計画の期間での増設は考えていない。

(委) 病児保育は年間を通すと足りている数字に落ち着く。この人数、現状施設で問題ないと考える。

- 先日、通学中の児童が巻き込まれる事故があったが、通学路の安全対策について聞きたい。

→平成27年から交通安全プログラムとしてチェックしており、学校、自治会からの要望もあり、事故前から体制はとっている。先日の会議では点検か所を洗い出し、把握することから始めることとしたところである。これについては、県からもチェック依頼がある。

- 不登校の親の相談窓口はどこか。また、どの年代に対しても行っているか。周知はどのようにされているか。

→教育研究所で実施している「スマイルいせ」が相談窓口となり、臨床心理士3名が一緒に考えていっている。「スマイルいせ」では小・中学生を対象に行っている。

→高校生については、教育委員会と連携し対応している。周知方法は広報いせやホームページ掲載、チラシなどを配布している。

- 就労している方への子育ての情報提供の仕方は。また、保育士の質について、公立・私立と一緒に勉強できる場はあるか。また、リモートでの研修は。

→4ヶ月健診のときの質問票等で相談したいことがある方を、子育て支援センターからも情報を得ながら健康課での教室に呼び、相談へつなげている。

→市内の子育て支援センターにおいて、相談事業を実施している。きらら館においては、

土・日・祝も行っている。「移動子育て支援センター」を本年5月から宮本地区と城田地区で新規事業として実施している。

→コロナ禍で積極的にできない状況ではあるが、調理師は集合研修や幼稚園・保育所の交流は実施している。リモートでの研修の実施に向けた体制の整備（wi-fi環境、PCの購入）を公立では行っているが、私立はそこには至っていない。

●コロナに関連しての相談実績はあるか。「移動子育て支援センター」はコロナを意識しての事業か。

→コロナに関しての相談件数は把握していないが、保育所を利用したいという要望は以前よりは強いと感じる。移動子育て支援センターについては、子育て支援センターから遠い人の利用が多いため、こちらからその地域に入りに行くことが目的で始めた。コロナの相談にもつながっていけばいいと考えている。

→こども家庭相談センターでも、相談件数は増え、養護、しつけの件数が増えている。LINE相談も始めた。

●児童虐待の通告件数は。またコロナにより件数は増えているか。

→令和2年度、通告件数は106件。伊勢市ではコロナの影響は見られない。

【事務局より】

議題（3）について説明（資料2-1、資料2-2）

●小・中学校の統廃合に伴う、今後の見通しについて教えて欲しい。

→伊勢宮川中、桜浜中、本年度みなと小の開校を行い、令和5年度に向けて二見浦小の高台移転を行う予定である。特に津波の影響を受ける地域を中心に整備している。計画はすでに立てているが、具体的な進捗はまだ見えていない。

（委）廃校扱いになっている学校で何か活用の仕方があれば教えて欲しい。

（委）学校医をしているが、統合の情報は早く教えて欲しい。

（委）廃校・廃園となった施設の活用で、学童も大事だが、自由に勉強できる、小さい子も自由に遊べる、地域みんなで遊べる、そのような場所もあっていいのではないか。

→昨年度末で廃校となった大湊小学校の跡地利用として、大湊振興会さんを中心とした実行委員会が立ち上がっており、小学校内で学童クラブや高齢者施設の実施など、地域の人で活用しようとする動きがある。また、旧さくらぎ保育所において、令和2年度から待機児童対策のため学童クラブを立ち上げ、施設を活用している。

→廃園等になった公の施設については、まずは庁内で他に活用できないか確認し、その後地域に施設の利用要望がないか確認している。

→沼木のまち協では、旧沼木中の施設でまち協の事務所としての活用、カフェを開いて高齢者やお子さまとの交流、みどり保育園との交流、毎週土曜に子ども塾を小・中学生を対象に実施し、他の遊びにもつながっている。

(委) 学校は地域の「核」となる場所であり、子どもの声が響いていることで地域が活性化することもあり、運動会も地域を巻き込んでやっている。うまく利活用して、中心に地域の人たちがつながっていけるような場所として再生して欲しい。廃校のままだと、どんどん人が少なくなってしまう。伊勢では、そうならないよう願っている。

●廃校や廃園となった施設の修繕担当は。自治会が使用している場合は。

→施設は行政で持ち続けるため、委託事業等の担当課で修繕を行っている。自治会が入っている施設は、まち協を担当している課と協議し実施している。

●資料2-2 p7の存続園の今後について聞きたい。

→幼稚園について、人数はやや少なくなっているが、まだまだ休園とするまでは至らない。

→保育園については、2園の民間移管を行ったが、今後は状況を見ながら実施していきたい。

(委)「子育てしやすいまち」と統廃合による場所が提供できないジレンマは必ず起こるので、地域と連携を密にして、単純な数の理論だけでなく、地域特性を含めて考えて欲しい。

【事務局より】

その他事項の説明（子育てハンドブック、親子3人乗り自転車補助、ファミサポ利用補助券、子育て世帯向け給付金の紹介、次回開催予定、議事録公開の説明）